

【企画シート】

(所属：)

名前：

)



プロジェクト名

【施設名（自治体名）】

地域の現状・課題 (今の地域)

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

取組の概要

ポイント

- ①
- ②
- ③

成果指標 (目的の達成度, 波及効果)

実施体制 (連携・協力団体等)

発展・継続・関連

運営財源・活動資金

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

【次のスライド】

記入上の留意事項を参考にして、企画シートを作成してください。

【企画シート】（記入上の留意点）

プロジェクト名

★地域内外の多世代・多様なたくさんの人や組織がこのプロジェクトに関わってみたい、また、関わってよかったと思える魅力的なネーミングを考えてみましょう。

SDGsのアイコンは「国際連合広報センター」のHPからダウンロードできます。



地域の現状・課題（今の地域）

- ★地域の現状を、自治体・地域の各種計画（ビジョン）や統計資料、住民ニーズを踏まえて把握し、「生涯学習・社会教育」（学びから始まる地域づくり）の観点から、課題を整理してみましょう。
- ★日常生活の中で「困ったな」「地域社会がこう変わればもっと暮らしやすくなるのにな」と感じることは、広く「地域課題」と捉えられます。
- ★数多くある課題の中で、優先順位を付けることも大切です。

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ★「学びから始まる地域づくり」の視点で、プロジェクトの目的（課題解決の方向性）を位置づけてみましょう。
- ★地域ビジョン等で具体的に示されているものがあれば、そこから転記しても構いません。
- ★住民自らが、地域の課題や未来像（こんな地域にしたい）を描くことから始めるプロジェクトとすることもできます。

「持続可能な開発目標」(SDGs)の17のゴールの中から関連するものを選んでアイコンを付しましょう。



取組の概要

ポイント

- ① ★プロジェクトのポイント（特色、良い所、アピールポイント）を「3点」にまとめて、
- ② 簡潔に表現してください。
- ③

- ★プロジェクトの立ち上げは、全てをゼロからスタートする必要はありません。まずは、テーマに関わる既存（類似）の取組を収集・整理し、つなぎ合わせて、新しい「プロジェクト」の中に位置づけ直してみましょう。
- ★既存の取組を見直すなかで、これまで取り組んできたことの中に、新しい価値や意味を見出したり、「こうしたらもっといいかも」、「あの事業や組織とつなげたらもっと効果的かも」などの気づきが生まれたりするかもしれません。企画に取り入れてみましょう。
- ★地域の資源（ヒト・コト・モノ・カネ…）を有効活用するとともに、多様な主体と連携・協働し、ネットワーク型の視点で取組を進めていきましょう。
- ★住民の主体性や当事者性を育めるよう、「体験型・参加型・参画型」の学びや活動を積極的に取り入れましょう。

発展・継続・関連

- ★中長期的な展望のもとで、本プロジェクトの終了（3年程度を想定）後、どのように継続・発展させていくのか、未来の姿を描いてみましょう。

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

- ★中長期的な展望のもとで、3年程度を目安に「準備期（立ち上げ、チームづくり等）」「試行期（本格実施の前の試行実施）」「実施期（本格実施）」等に分けて、計画を立ててみましょう。PDCAサイクルを「見える化」しながら進めることで持続可能なプロジェクトが実現できます。

成果指標（目的の達成度、波及効果）

- ★上記の目的をどれだけ達成できたか、さらなる波及効果はあったのか、指標はできるだけ数値化（定量評価）し、客観的なものさしで評価できるようにしましょう。
- ★数字では表せない「質」に関する内容については、定性的に（定性評価）考えることで、つながり（関係性）や、意味、文脈などを明確にしやすくなります。

実施体制（連携・協力団体等）

- ★プロジェクトの主管（コーディネーター）は「公民館」（又は市町の所管課等）としてください。
- ★多様な主体がメンバーとして関わられるよう、実行委員会形式としても構いません。（実情に応じて検討してください）
- ★地域内の既存の関係団体のほか、地域内外の多様な主体が関わり、住民の主体的・協働的な学びを通じた地域づくりが実現できるような実施体制を考えてみましょう。

運営財源・活動資金

- ★主催事業の予算のほかに、テーマに応じた助成金・補助金等の活用も検討してみましょう。
- ★「クラウドファンディング」等の活用を視野に入れてみる可能性もあります。
- ★県教育委員会HP「公民館等お役立ち情報」では、公民館等を拠点とした地域活動活性化の資金源となる「助成金情報」を紹介しています。

【次以降のスライド】

広島県立生涯学習センターが作成した開発モデルの試案(企画シート)です。御自由に御活用ください。

みんなで作る・未来の〇〇プロジェクト（まるごと〇〇大学）【〇〇公民館】

地域の現状・課題（今の地域）

- ・過疎や高齢化が進み、若年世代の減少
- ・若年世代の地域参画機会の減少
- ・地域住民（多世代）同士の交流の場の不足
- ・公民館等の貸館状態化、利用者の固定化

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ・住民参画による地域ビジョンの形成・共有
 - ・若い世代の地域貢献活動の活性化・世代間交流
 - ・学びを通して社会に主体的に関わり行動する人材の育成
- 公民館が“学び”から新しい未来を生み出す地域の拠点に！



取組の概要

ポイント

- ① 住民一人一人の思い、アイデア、学びの成果を地域づくりに生かす！
- ② 地域の人、組織、事業、自然環境、文化、歴史、生活…すべてをまるごと学習資源に！
- ③ 若い力で地域を変える！（学ぶ力と郷土愛の育成）

準備期

■地域への思いや未来像を共有するためのワークショップ(まるごと〇〇大学)

- ①地域の思いを知る(プロジェクトチーム立ちあげ、住民リサーチ(インタビュー、アンケート))
- ②地域の変化を読む(地域の昔と今を知り、現状を把握)
- ③地域の魅力を集める(中高生による地域の魅力発見フィールドワーク)
- ④地域の未来を語りあう(中高生と多世代の住民の対話で生み出す地域の未来像)
- ⑤できるところから始める(未来像を実現する事業を立案し、活動を開始！)

試行期

■プロジェクトチームによる企画会議(事業計画立案、試行実施)

【事業(まるごと〇〇大学)のアイデアの一例】

- ・中高校生レストラン(〇〇カフェ)
(特産品を使ったメニュー開発、中学生・高校生によるレストラン運営)
- ・〇〇アドベンチャー・パーク
(豊かな自然環境を生かした子供の体験学習の場づくり)
- ・〇〇チャレンジクラブ
(誰かのやってみたいこと・挑戦をみんなで応援)
- ・〇〇農業大学(若い世代の力でクリエイティブな未来の農業を創造)

実施期

■事業開始(まるごと〇〇大学)

■公民館まつりへの出展・協力(成果発表)

- ・まるごと〇〇大学体験ミニコーナー
- ・プロジェクトの紹介展示ブース
- ・中高生による成果発表

成果指標（目的の達成度、波及効果）

【定量評価】

- ・プロジェクトへ参加した住民数
- ・公民館等の利用者数
- ★この地域で暮らし続けたいと思う住民数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力(ソーシャル・キャピタル)の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

- ・〇〇公民館(プロジェクト主管)
- ・〇〇地区自治協議会 ・地域おこし協力隊
- ・〇〇市役所(役場)〇〇課
- ・〇〇市教育委員会〇〇課
- ・保育所、小学校、中学校、高等学校、PTA
- ・老人会 ・女性会 ・子ども会

運営財源・活動資金

- ・△△市(町)まちづくり支援事業補助金
- ・〇〇地区自治協議会(農業部会)予算
- ・公民館主催事業予算 ほか

発展・継続・関連

- ・プロジェクトチームの自立化支援(発展・充実) ・学校や企業、団体等との連携の広がり継続

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目						準備期	PTキックオフ会議		ワークショップ①		②	③
2年目	ワークショップ④	PT会議(随時)	⑤	⑥	⑦	⑧		企画会議(随時)		事業試行実施①		②
3年目			事業本格実施(PT会議:随時)									公民館まつり

【参考情報】

- このまちに暮らしたいプロジェクト(広島市古田公民館)
- 若者参画による過疎地域活性化事業(神石公民館)
- 開成っ子はぐくみ会(佐賀県佐賀市開成公民館)
- チームさかわ(高知県佐川町)



地域みんなで☆子育て応援団プロジェクト（家庭教育支援チーム〇〇）【〇〇公民館】

地域の現状・課題（今の地域）

- ・子育て中の親の養育力の低下
- ・家庭教育に関する身近な学びや相談の機会が乏しい
- ・家庭と地域のつながりの希薄化
- ・多様な世代の関わりが少ない

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ・「親」の主体性を育み、支援の循環を生み出す学びの場づくり
 - ・子育て家庭を支える地域のネットワークと体制づくり
 - ・多様な世代が関わり合い、安心して子育てができる地域コミュニティの創造
- 親と子の育ちを応援する“つながり”と“学び”の場としての公民館



取組の概要

ポイント

- ① 「してあげる支援」から、親が親自身の力で育っていくための「力を引き出す支援」へ！
- ② 子育て家庭と多世代の交流による関係づくり（地域育ち・地域がひとつの大きな家族）！
- ③ 子育て中の親（当事者）や地域の人材で支援チームを立ち上げ（次世代の支援者を育成）！

準備期

- 子育て応援団プロジェクト・ワークショップの開催
 - ・地域内の子育て支援に関わる既存の多様な関係団体のネットワーク形成
 - ・地域課題を共有し、一体的な家庭教育の推進を図る
- 家庭教育支援チーム（立ち上げ準備）キックオフ会議（企画会議：毎月1回定例会）
- 家庭教育講演会

試行期

- 子育ておせっかいさん養成講座（「親プロ」ファシリテーター養成講座）
 - ・次世代の支援者育成（→チームへの参加呼びかけ）
- 「子育てにっこりカフェ」（オープンスペース）開設

実施期

- ママとパパの子育て応援講座（4回講座） ■「親プロ」講座（主催講座、訪問型講座）
- 子育て応援ファミリーフェスタ（公民館まつりと合同実施）
 - ・「親プロ」体験ブース ・親子で楽しめる体験活動ブース ・子育てサークル紹介ブース等
- 「家庭教育支援チーム」の発足

公民館だより・ブログ・SNSで情報発信

成果指標（目的の達成度、波及効果）

【定量評価】

- ・講座等に参加した住民数
- ・家庭教育支援に関わった支援者等の数
- ・家庭教育支援チームの発足
- ★この地域で子育てしたいと思う住民数

【定性評価】

- ・家庭教育支援のネットワークの構築
- ・地域力（ソーシャル・キャピタル）の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

- ・〇〇公民館（プロジェクト主管）
- ・「親プロ」ファシリテーターの会
- ・健康福祉部局 ・民生児童委員
- ・〇〇地区自治協議会・社会福祉協議会
- ・地域の子育てサークル ・保育所、幼稚園、児童館、小学校、中学校、PTA ・老人会 ・女性

運営財源・活動資金

- ・△△市まちづくり支援事業補助金
- ・〇〇地区自治協議会予算
- ・公民館主催事業予算 ほか

発展・継続・関連

- ・家庭教育支援チームの活動促進、自立化支援 ・学齢期の子供の家庭への支援の充実
- ・つながりにくい家庭に支援をつなげるための、福祉部局や学校との連携の仕組みづくり
- ・子育てガイド・リーフレット作成 ・地元企業等との連携

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目							ワークショップ開催 キックオフ会議			準備期 企画会議		家庭教育講演会
2年目		「おせっかいさん養成講座 企画会議（毎月1回）」		子育てカフェ開設（毎週〇曜日）			子育て応援講座（4回講座）					
3年目		「おせっかいさん養成講座 企画会議（毎月1回）」		子育てカフェ（毎週〇曜日）			子育て応援講座（4回講座）			ファミリーフェスタ開催		★家庭教育支援チームの発足

【参考情報】

- 府中町家庭教育支援チーム「くすのき」（府中町）
- 向東地区家庭教育支援チーム「親ごから」（尾道市）
- 尾道市「すまいるばれっと」（「親プロ」ファシリテーターの会）
- 未来のまちのおせっかいさん養成講座（海田公民館）



地域・学校 共育ちプロジェクト ～子供は地域の宝じゃけん～【〇〇公民館】

地域の現状・課題（今の地域）

- ・少子化・核家族化の進展、共働き世代の増加
- ・地域のつながりの希薄化
- ・地域格差・経済格差の進行
- ・学校を取り巻く問題の複雑化・困難化

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ・地域ぐるみで子供たちの健全育成を図る
- ・子供たちの豊かな社会体験活動の推進
- ・学校・家庭・地域の連携強化による地域社会の教育力の向上

→公民館がコーディネート機能を発揮し、地域と学校のパートナーシップを実現



取組の概要

ポイント

- ① 地域が学校を元気にし、元気な学校が地域を活性化する好循環の仕組みづくり！
- ② 公民館がコーディネートし、地域の資源（ヒト・モノ・環境…）を最大限に生かす！
- ③ 子供と大人の学びの好循環により、地域全体の学びが活性化！

準備期

- 「学校を核とした地域づくり」ネットワーク会議の組織化、研修会(ワークショップ)の開催
 - ・学校や地域活動に関わる既存の多様な関係団体のネットワーク形成
 - ・地域学校協働活動の理解と趣旨の共有
- 企画会議

試行期

- ・地域の多様な経験や技能を持つ人財や公民館利用団体等とコラボした事業を企画
- 〇〇キッズ(夏・冬・春休み講座)
- 学校の文化祭への公民館出前講座、出展、芸能発表
- 公民館まつりで、子供たちが学校(教科等)で学んだことを発表

実施期

- 「サテライト講座」の実施(学校⇄公民館)
 - ・学校の授業へ住民が参加、公民館の講座へ学校の授業の一環で子供たちが参加
- 〇〇キッズ(隔月第3土曜日開催)
- 学校・公民館合同学習フェスタ(公民館まつりと合同実施)

※学校の教科(「生活科」や「総合的な学習の時間」など)の中に組み込めるよう学校と緊密な連携を図る。

公民館だより・ブログ・SNSで情報発信

成果指標（目的の達成度、波及効果）

【定量評価】

- ・学校に地域の人が関わった数
- ・子供の地域の活動体験の数
- ★この地域で暮らしたいと思う住民の数

【定性評価】

- ・「〇〇キッズ応援団」チームとしての構築
- ・地域力(ソーシャル・キャピタル)の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

- ・〇〇公民館(プロジェクト主管)
- ・〇〇地区自治協議会
- ・公民館団体利用者(サークル・クラブ等)
- ・小学校、中学校、PTA
- ・地域学校協働活動推進員
- ・老人会 ・女性会 ・子ども会

運営財源・活動資金

- ・△△市まちづくり支援事業補助金
- ・〇〇地区自治協議会予算
- ・公民館主催事業予算 ほか

発展・継続・関連

〇「〇〇キッズ応援団」の発足と活動の充実

- ・チーム化
- ・連携授業(講座)の実施
- ・人材確保と人材養成
- ・オリジナルソング等の創作

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目							NW会議立ち上げ キックオフ会議		企画会議	準備期	研修会 ワークショップ	
2年目							〇〇キッズ①	文化祭	公民館まつり	〇〇キッズ②	〇〇キッズ③	
3年目	NW会議・企画会議(随時)						サテライト講座(随時)	〇〇キッズ(隔月)		合同学習フェスタ		
	NW会議・企画会議(随時)											

【参考情報】

- 山陽小野田市教育委員会・中央公民館の実践事例
(公民館を拠点とした地域学校協働活動)
- ひがしのキッズ(竹原市立東野公民館)



つながりプラットフォームプロジェクト（公民館カレー食堂）【〇〇公民館】

地域の現状・課題（今の地域）

- ・一人親世帯の増加等を背景とした貧困問題
- ・家庭・地域の教育力の低下
- ・地域住民（多世代）の交流の場の不足
- ・地場産業（農業等）の担い手不足

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ・地域全体で全ての子どもを育む仕組みづくりと多世代交流
 - ・だれもが気軽に訪れ、集い、つながりあえる居場所づくり
 - ・地元の食材や地場産業（農業等）への理解・愛着と将来的な担い手育成
- 食(カレー)をテーマに、地域の誰もが集える“プラットフォーム”を創造



取組の概要

ポイント

- ① 経済的に厳しい、困難を抱える家庭の子どもだけでなく地域すべての住民（子供）を対象に！
- ② 既存の公民館講座や関係団体のメンバーがスタッフに（“動員”でなく“楽しんで”活動）！
- ③ お年寄りから子供まで、親しみやすく、誰もが大好きな「カレー」をテーマに事業展開！

準備期

■プロジェクトチームの組織化、事業企画ワークショップ開催

- ・関係団体・サークル等への説明と協力依頼
- ・協力者によるプロジェクトチームの組織化
- ・地域の実態や課題を把握・共有し、プロジェクトの展望を描くワークショップを開催。

試行期

■プロジェクト会議

■事業説明会（広報、周知説明）

■「公民館カレー食堂」試行（年間5回）

- ・公民館講座や関係団体のメンバーがスタッフに！

実施期

■「公民館カレー食堂」定例開催（毎月第1土曜日）

■公民館まつりへの出展・協力（成果発表）

- ・各団体のカレー試食ブース
- ・“こどもカレー食堂”開店！（中高生による主体的な運営）
- ・プロジェクトの紹介展示ブース

※輪番制で各団体のオリジナルカレーを創作
 ※地元の食材（規格外食材等）を農業法人等から提供協力

公民館だより・ブログ・SNSで情報発信

成果指標（目的の達成度、波及効果）

【定量評価】

- ・プロジェクトに参加した住民数
- ・協力団体（ボランティア）数や提供食材数
- ★この地域で暮らし続けたいと思う住民数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力（ソーシャル・キャピタル）の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

- ・〇〇公民館（プロジェクト主管）
- ・〇〇地区自治協議会
- ・〇〇地区社会福祉協議会
- ・〇〇地区農業団体
- ・保育所、小学校、中学校、PTA
- ・老人会 ・女性会 ・子ども会

運営財源・活動資金

- ・△△市（町）まちづくり支援事業補助金
- ・〇〇地区自治協議会（農業部会）予算
- ・「子ども食堂」関係の補助事業等活用
- ひろしまこども夢財団こども食堂支援事業、フードバンク…

発展・継続・関連

- ・“出張”公民館食堂の実施（他施設・他地域への出前事業）
- ・つながりにくい家庭へのアクセスの検討
- ・こどもカレー食堂の定例実施
- ・学校や企業、団体等の連携の広がり継続
- ・カレー以外のメニュー開発

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目										準備期 事業企画WS		
2年目		事業説明会 PT会議①	公民館食堂① PT会議②	公民館食堂②	公民館食堂③	公民館食堂④	公民館食堂⑤	協力団体等への説明	PTキックオフ会議①			PT会議③
3年目		公民館食堂（毎月1回） PT会議①	PT会議②	実施期							公民館まつり	PT会議③

【参考情報】

- 浅原食堂（廿日市市浅原市民センター）
- 泉川公民館カレーの日（愛媛県新居浜市）
- 循誘公民館カレーの日（佐賀県佐賀市）の取組
- 各地の「子供食堂」の取組

チャレンジ防災！プロジェクト in ○○ 【○○公民館】

地域の現状・課題（今の地域）

- ・地域住民の防災意識が低い
- ・災害発生直後の避難所(公民館)運営の仕組みがない
- ・高齢者、障害者、乳幼児(子育て)世帯等の孤立・支援

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ・住民の防災意識の向上
 - ・地域防災力による避難所(公民館)の開設
 - ・災害時における地域での助け合いネットワークの形成(関係づくり)
- 地域の安全・安心拠点としての公民館づくり



取組の概要

ポイント

- ① 「防災」という住民誰もが自分事となる共通課題への取組みを通じて、地域力を醸成。
- ② 既存の「地域資源」や「事業」を生かして、できるところから無理なくスタート。
- ③ 公民館が核となり、学校・家庭・地域の連携を通じて防災教育を幅広く推進。

準備期

- 防災教育ネットワーク会議の組織化、防災ワークショップの開催
 - ・地域内の防災・福祉・教育に関わる既存の多様な関係団体のネットワーク形成
 - ・地域課題を共有し、一体的な防災教育の推進を図る。

試行期

- 避難訓練・防火訓練 ■ 救命救急講習
- チャレンジ防災○○ウォークラリー
- 災害時避難所開設訓練(HUG避難所運営ゲーム)
- 「広島県『みんなで減災』一斉地震防災訓練」参加(毎年11月)

実施期

- チャレンジこども○○防災キャンプ
- チャレンジ防災フェスタ(公民館まつりと合同実施)
 - ・防災プロジェクトの紹介 ・ハザードマップ等の掲示
 - ・防災工作教室、防災紙芝居、防災カルタ ・消防車展示(消防車と記念撮影)

公民館だより・ブログ・SNSで情報発信

成果指標（目的の達成度、波及効果）

【定量評価】

- ・地域防災活動等に参加した住民数
- ・△△市防災情報メールの登録者率
- ★この地域で暮らし続けたいと思う住民数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力(ソーシャル・キャピタル)の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

- ・○○公民館(プロジェクト主管)
- ・○○地区自治協議会
- ・○○地区社会福祉協議会
- ・○○地区自主防災会
- ・保育所、小学校、中学校、PTA
- ・老人会 ・女性会 ・子ども会

運営財源・活動資金

- ・△△市まちづくり支援事業補助金
- ・○○地区自治協議会(防災部会)予算
- ・公民館主催事業予算 ほか

発展・継続・関連

- 体験型防災学習の充実
 - ・クロスロードゲーム
 - ・DIG(災害図訓練)・「防災キッズ」養成講座
 - ・防災教室「ひろしま」プログラム
 - ・防災運動会(○○地区運動会と合同実施)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目							ネットワーク会議立ち上げ キックオフ会議①			準備期 NW会議②		防災ワークショップ
2年目	避難訓練 NW会議①	防災訓練	試行期	救命救急講習 NW会議②			防災ウォークラリー	一斉地震防災訓練				避難所開設訓練 NW会議③
3年目	避難訓練 NW会議①	防災訓練	実施期	救命救急講習 NW会議②		防災キャンプ		防災フェスタ 一斉地震防災訓練				避難所開設訓練 NW会議③

【参考情報】

- 地域における防災教育の実践に関する手引き(内閣府)
- チャレンジ防災in原(廿日市市原市民センター)
- 防災研修&炊出訓練(庄原市口和自治振興センター)

リノベ公民館プロジェクト

【〇〇公民館】

地域の現状・課題 (今の地域)

- ・ 男性, 中高年世代の地域参画
- ・ 地域住民(多世代)間交流の機会の不足
- ・ 公民館の貸館状態化, 利用者の固定化

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

- ・ 男性, 中高年世代の地域参画の促進
- ・ 地域住民の絆づくり, 地域ネットワークの形成
- ・ 公民館の利用活性化



→リノベーションの力で, 公民館が変わる! 地域を変える!

取組の概要

ポイント

- ① リノベーションの力で, 公民館が変わる! 地域を変える!
- ② 普段あまり公民館を利用しない, 男性や中高年世代の参画を促進!
- ③ 地域の企業・商店, 専門家, 既存の施設・事業など地域資源を最大限に活用!

準備期

■思いを共有するためのワークショップ

・こんな地域をつくりたい, こんなことがしてみたい, こんな施設をつくりたいなどの思いを共有

■リノベ公民館キックオフ会議→プロジェクトチーム立ち上げ

・ワークショップ参加者を中心にプロジェクトチームを立ち上げ

■プロジェクトチームによる企画会議(事業計画立案)

■日曜大工講座 (既存事業の活用・拡充)

■リノベーション講座(ワークショップ)全5回

・地域の企業・商店, 専門家等の協力を得ながらリノベーションに関する知識・技能を習得
 ・日曜大工講座の参加者を中心に, 男性や中高年世代の参画を促す

■リノベーション開始

・公民館の老朽化した部屋などをリノベーション

■〇〇まちづくりキャンパスオープン

・リノベーションした部屋を活用した事業開始
 ・交流カフェ, ミニマルシェ, 子供体験講座など…

■リノベーションステップアップ講座

○資材・機材や技術指導等は地元企業の協賛を得る。
 ○働く世代の方が空き時間を利用して自由に活動できるよう, 休日や夜間の会場開放を検討する。
 ○地元の若者(中高校生等)の協力を得られるよう, 学校と連携する。

試行期

実施期

発展・継続・関連

・まちづくりキャンパスの事業充実 ・地域内の新たなリノベーション施設の開拓 ・新たな協力者層の巻き込み

成果指標 (目的の達成度, 波及効果)

【定量評価】

- ・プロジェクトへ参加した住民数 (男性, 中高年世代)
- ・公民館等の利用者数
- ★この地域で暮らし続けたいと思う住民数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力(ソーシャル・キャピタル)の醸成

実施体制 (連携・協力団体等)

- ・〇〇公民館(プロジェクト主管)
- ・〇〇地区自治協議会
- ・地域おこし協力隊
- ・中学校, 高等学校, PTA
- ・地元協賛企業 (ホームセンター, 工務店等)

運営財源・活動資金

- ・△△市まちづくり支援事業補助金
- ・公民館主催事業予算
- ・地元企業 協賛金 ほか

【参考情報】

- マスタヒとまちカレッジとよかわキャンパス (島根県益田市豊川地区つろうて子育て推進協議会)
- 泉佐野丘陵緑地「パークレンジャー養成講座(パーククラブ)」(大阪府宮泉佐野丘陵緑地パークセンター)

